

「スポーツで輝く関西」をめざして

当会は2018年に「関西スポーツ振興ビジョン」を策定。「生涯スポーツ振興」「トップアスリート育成」等の4本柱を打ち出し、2025年を目標年に据え、関西の産学官・スポーツ界とも連携して、「スポーツで輝く関西」の実現に向け取り組んでいる。

2023年度はこれまで進めてきた事業に加え、「トップアスリート育成」に関しては、スポーツ庁事業との連携や医科学相談窓口の設置、また、「生涯スポーツ振興」に関しては、企業表彰への部門(審判員表彰)の追加に新たに取り組んだ。今号では、スポーツ振興に関する2023年度の活動状況を紹介する。

「関西スポーツ振興ビジョン」を基に活動を展開

当会は、2018年7月に策定した「関西スポーツ振興ビジョン」で掲げた4本柱「生涯スポーツ振興」「トップアスリート育成」「スポーツイベント招致」「スポーツ産業振興」の具体化に向けた取り組みをオール関西で進めている。2023年度の主な活動は以下のとおり。

「生涯スポーツ振興」事業

■ スポーツイベントへのアスリート派遣事業

当会では、実業団チーム等を有する企業の協力を得て、地域のスポーツイベントにアスリートを派遣することで、当該イベントの魅力向上・スポーツ参加の裾野拡大に寄与しようと、アスリート派遣事業を2020年度から実施している。

2023年度は、和歌山県、京都府、兵庫県養父市・宝塚市等において、柔道やラグビーなどの種目で計12件の派遣協力を実施した。

参加者からは「普段会えないトップアスリートと練習できてうれしい」、また、派遣先の自治体からは「トップアスリートが参加してくれてイベント内容が充実した」といった評価の声が寄せられた。



京都府亀岡市
(ラグビー教室)



兵庫県三田市
(柔道教室)

■ 関西スポーツ応援企業表彰

当会と関西広域連合が、2019年度から関西のスポーツ振興に取り組んでいる企業等を表彰している「関西スポーツ応援企業表彰」は、今回で5回目を迎えた。2023年度からは新たな取り組みとして、企業で働く審判員の表彰も開始した。

2024年1月25日に開催した表彰式では、松本正義会長と三日月大造広域連合長から、受賞した5社の代表と審判員の方々(表)に対し、表彰状と副賞を贈呈した。

表 関西スポーツ応援企業表彰 受賞事業・受賞者

大賞：あいおいニッセイ同和損害保険(神戸市)

パラアスリート雇用と従業員のスポーツ大会応援活動

スポーツ振興賞：松源(和歌山市)

相撲部、ホッケー部、野球部によるスポーツ振興活動

地域振興賞：グローリー(姫路市)

小学生育成財団設立による地域でのスポーツ振興活動

健康経営賞：島津製作所(京都市)

従業員の健康促進を目的にしたスポーツ大会等の実施

特別賞：ペタビット(神戸市)

自社のIT技術を活用した野球大会の実施と運営

審判員表彰：

細見 竜太(健栄製薬/大阪府バスケットボール協会)

前川 敦彦(中野製薬/京都陸上競技協会)

谷野 正和(山陰化成工業/鳥取県バレーボール協会)

小坂 綱史(新しいなば幸朋苑/鳥取県空手道連盟)

坂井 元直(マキテック/三重県バスケットボール協会)



表彰式の様子

「トップアスリート育成」事業

■ 医科学支援事業

将来有望なジュニアアスリートの競技力向上をスポーツ医科学の側面から支援するため、当会は2020年度から医科学支援事業に取り組んできた。現在は、大阪大学医学部、大阪体育大学、立命館大学スポーツ健康科学部、和歌山県立医科大学げんき開発研究所、びわこ成蹊スポーツ大学、京都トレーニングセンターの参加・協力を得て実施している。

本年度は各府県体育・スポーツ協会から推薦された26名を対象に医科学測定会を行うとともに、医科学サポートプログラム(測定会参加者のうち優秀な選手10名に対する総合的支援)を実施した。加えて、スポーツ医科学のアプローチを必要とするアスリートや指導者が悩みを相談できる「医科学相談窓口」を設置した。寄せられる悩みに応じて専門機関を紹

介するなど取り組みを進めていく。

■ スポーツ庁事業との連携～コンソーシアム設立

こうした関西広域での取り組みが、昨年5月にスポーツ庁事業「地域におけるスポーツ医・科学サポート体制構築事業」に採択された。11月には取り組みの実施主体として「関西スポーツ医・科学サポートコンソーシアム」が設立されている。今後は、このコンソーシアムが中心となり、関西における医・科学サポート体制の拡大・発展を推進していく。

産学官の連携でスポーツ先進地域に

当会は、スポーツ庁事業との連携もふまえ、関西がわが国有数のスポーツ先進地域となるよう、産学官の連携をさらに深め、各事業に取り組んでいく。

(地域連携部 橘知孝・味谷宗由)

第2回関西スポーツ振興シンポジウム 「関西が先駆ける、地域におけるスポーツ 医科学支援と今後の展望」を開催

関西におけるスポーツ振興の取り組みへの理解を促進し、次のアクションにつなげていくための意見交換の場として、当会は大学スポーツコンソーシアムKANSAI(KCAA)、関西広域連合とともに12月5日にシンポジウムを開催。関西の企業・大学・自治体・スポーツ界などから、会場とオンラインあわせて約150名が参加した。

- 開会挨拶 松本 正義 関経連会長
- 基調講演①「関西におけるスポーツ医科学支援の新たな展開」
講師：馬淵 博行 京都トレーニングセンター センター長
- 基調講演②「関西におけるスポーツ医科学研究の最前線～KCAA加盟大学の取り組みから～」
講師：伊坂 忠夫 KCAA 会長
- パネルディスカッション「地域におけるスポーツ医科学支援の現在と未来」
ファシリテーター：藤本 淳也 KCAA 副会長
パネリスト：小玉 康一郎 関経連スポーツ振興委員会副委員長
禰屋 光男 びわこ成蹊スポーツ大学教授
土性 沙羅 リオデジャネイロ五輪レスリング金メダリスト
松阪市教育委員会事務局スポーツ課

〈パネルディスカッションでの主な発言〉

- スポーツ医科学の知見は、スポーツ事故の防止や病気のリスクの軽減などにつながる。アスリートや指導者だけでなく、一般の方々にも活用いただきたい。
- スポーツを好きになってもらうことが日本の競技スポーツ強化への一番の近道。スポーツ人口が増えることで健康増進、ひいては日本の競技力向上につながる。
- このようなスポーツ医科学支援の取り組みを広域で行っているのは関西だけである。このチャレンジを発展・充実させて、持続可能な仕組みをどのように作っていくかを考えなければならない。
- 閉会挨拶 三日月 大造 関西広域連合長
本日のお話を聞いて、4つの可能性を感じた。一つは「スポーツ」——一般の方の幸せや健康につながる。二つ目は「スポーツ医科学」——アスリートだけでなく、一般の方々もサポートできる。三つ目は「産学官連携」——ほかにない関西の取り組みを発展させたい。四つ目は「関西」——WMGや万博がある。これらの可能性を伸ばすために、皆さんのお力添えをお願いしたい。

